

2026年3月期 決算説明会

株式会社 き も と

2026年5月22日

1 2026年3月期 決算について

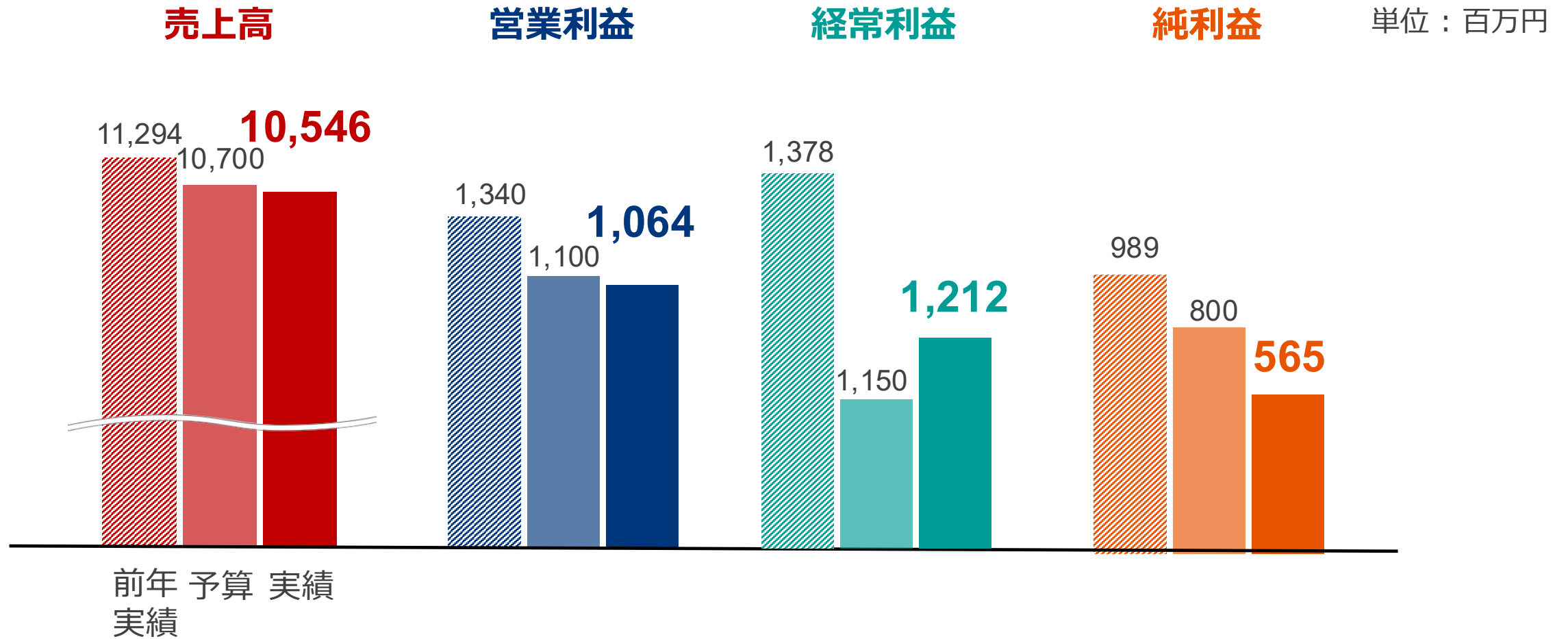
2 2027年3月期 通期業績予想

3 Global Sales

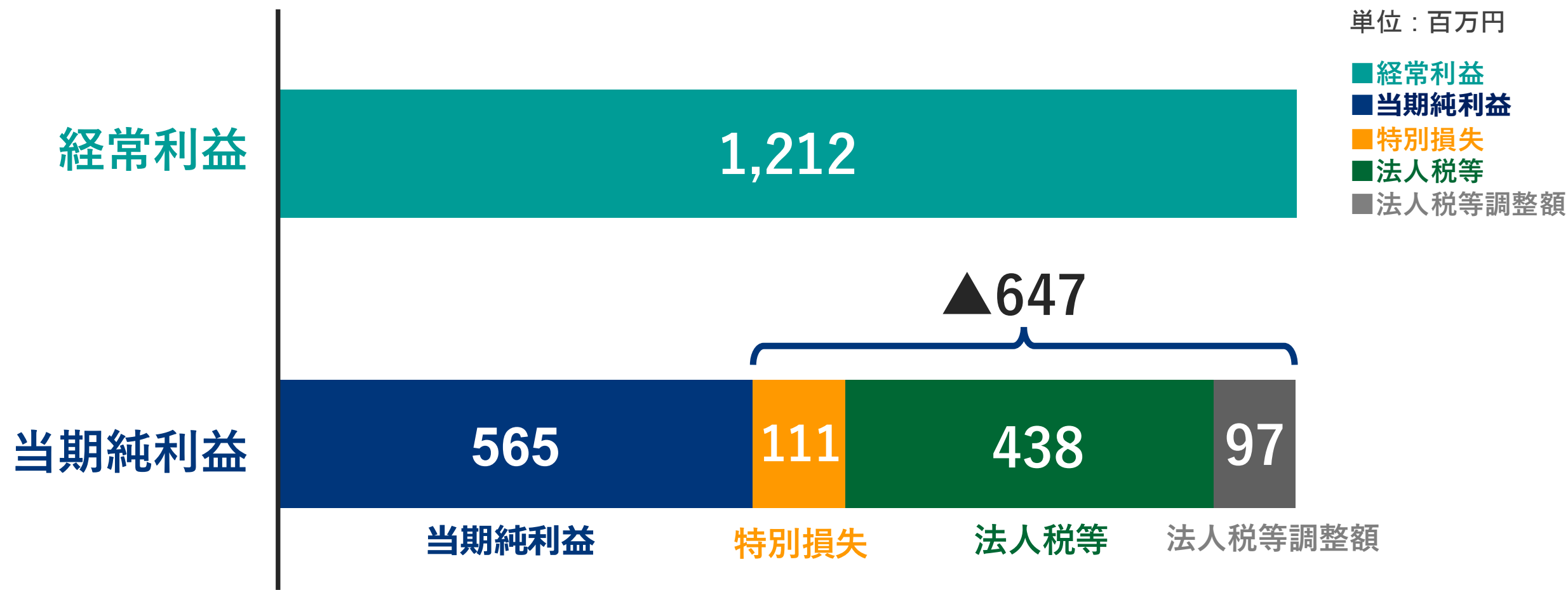
4 Global Tech

5 DCX

損益計算書 [連結]

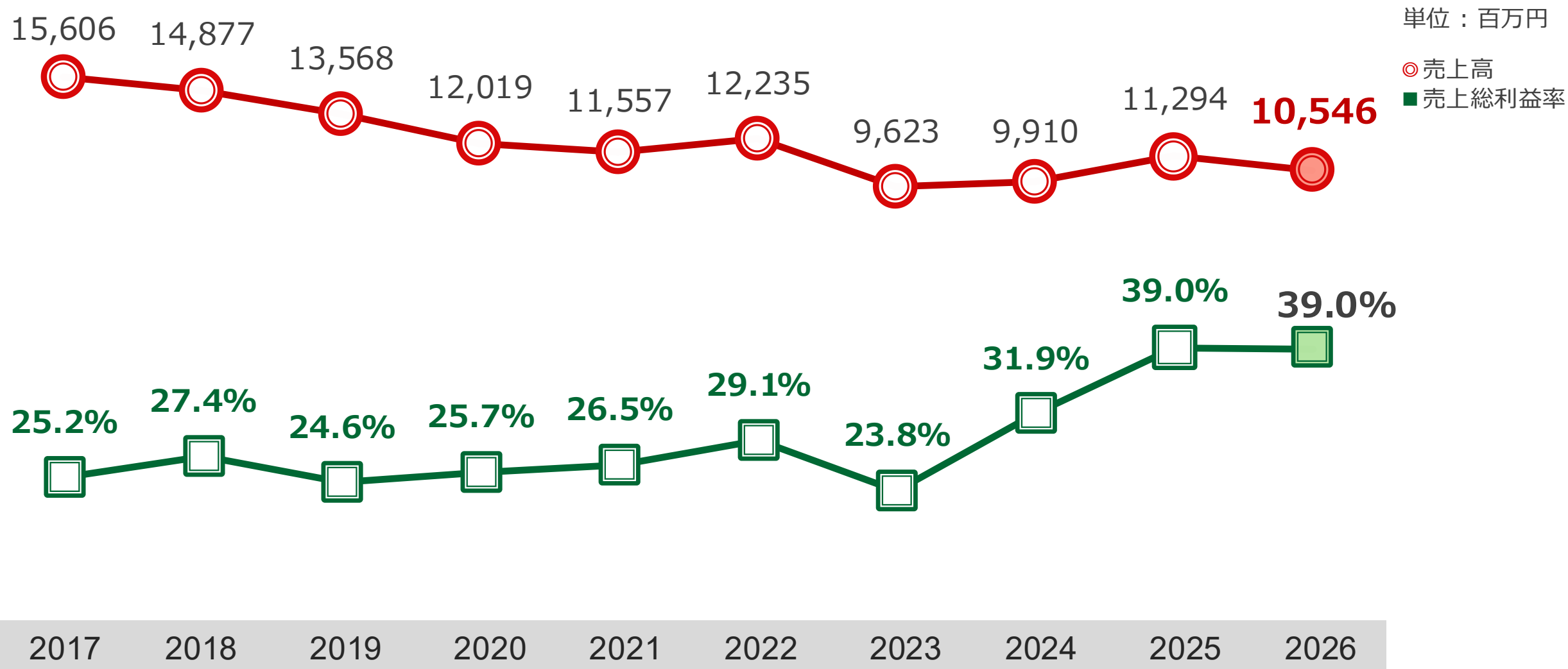


当期純利益減少の要因 [連結]



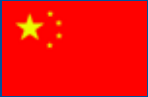
売上高・売上総利益率 [連結]

2017年3月期～2026年3月期 比較



KIMOTOグループ業績

単位：百万円

		日本	アメリカ	スイス	中国
					
売上高	2026年 3 月期	9,948	541	476	124
	2025年 3 月期	10,491	862	733	160
営業利益	2026年 3 月期	1,395	▲ 262	▲ 24	▲ 61
	2025年 3 月期	1,446	▲ 139	52	▲ 27

※上記の売上高は内部取引を考慮しておりません。

【日本】 売上構成

単位：百万円

	2025年 3 月期	構成比	2026年 3 月期	構成比	増減	増減率(%)
高機能材料事業	10,098	96.3%	9,590	96.4%	▲ 508	▲ 5.0%
通信機器	4,230	40.3%	4,141	41.6%	▲ 89	▲ 2.1%
輸送機器	2,210	21.1%	1,968	19.8%	▲ 241	▲ 10.9%
産業機器	1,289	12.3%	1,579	15.9%	289	22.5%
その他	2,368	22.6%	1,900	19.1%	▲ 467	▲ 19.7%
デジタルツイン事業	392	3.7%	358	3.6%	▲ 34	▲ 8.8%
3D	175	1.7%	171	1.7%	▲ 4	▲ 2.4%
2D	86	0.8%	102	1.0%	15	18.2%
コンサルティング	16	0.2%	22	0.2%	6	36.0%
その他	114	1.1%	61	0.6%	▲ 52	▲ 45.9%

※上記の売上高は内部取引を考慮しておりません。

【アメリカ】 売上構成

単位：百万円

	2025年 3 月期	構成比	2026年 3 月期	構成比	増減	増減率(%)
高機能材料事業	862	100.0%	541	100.0%	▲ 320	▲ 37.2%
通信機器	159	18.5%	103	19.1%	▲ 56	▲ 35.2%
輸送機器	279	32.4%	178	32.8%	▲ 101	▲ 36.2%
その他	423	49.1%	260	48.0%	▲ 163	▲ 38.6%

※上記の売上高は内部取引を考慮しておりません。

【スイス】 売上構成

単位：百万円

	2025年 3 月期	構成比	2026年 3 月期	構成比	増減	増減率(%)
高機能材料事業	733	100.0%	476	100.0%	▲ 257	▲ 35.1%
通信機器	98	13.4%	88	18.6%	▲ 9	▲ 10.1%
輸送機器	332	45.3%	162	34.0%	▲ 170	▲ 51.2%
その他	302	41.2%	225	47.4%	▲ 76	▲ 25.4%

※上記の売上高は内部取引を考慮しておりません。

【中国】 売上構成

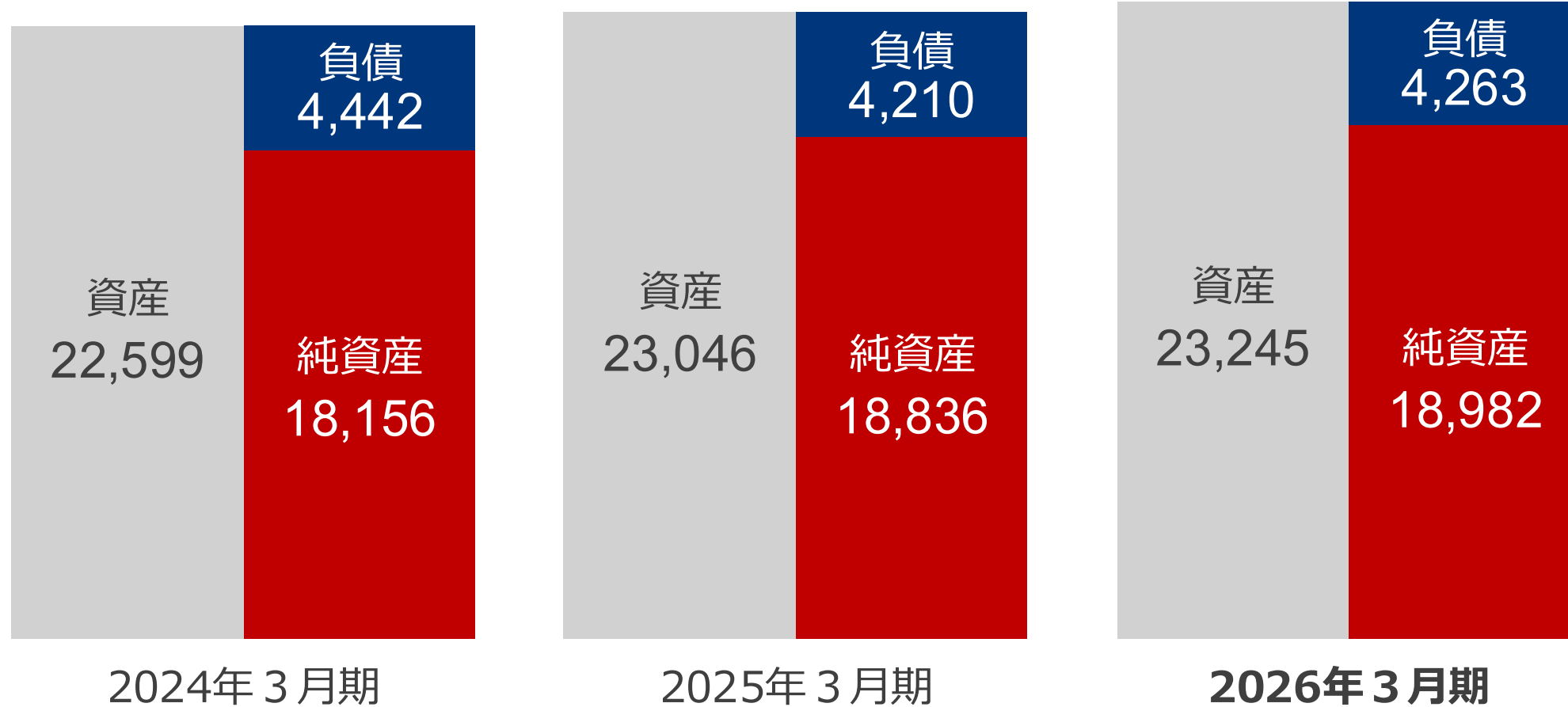
単位：百万円

	2025年 3 月期	構成比	2026年 3 月期	構成比	増減	増減率(%)
デジタルツイン事業	160	100.0%	124	100.0%	▲ 35	▲ 22.4%
3D	76	48.1%	41	33.4%	▲ 35	▲ 46.1%
2D	48	30.3%	43	35.2%	▲ 4	▲ 10.0%
その他	34	21.6%	39	31.4%	4	12.8%

※上記の売上高は内部取引を考慮しておりません。

貸借対照表 [連結]

2024年3月期～2026年3月期 比較



2026年 3 月期 貸借対照表 [連結] 主な変動要因

単位：百万円

資産		対前期末比	
199			
長期預金			
1,565			
投資有価証券			
175			
建物及び構築物（純額）			
139			
負債		対前期末比	
52			
資産除去債務		繰延税金負債	
338		151	
		電子記録債務	
		▲400	
純資産		対前期末比	
146			
為替換算調整勘定		利益剰余金	
246		204	
		自己株式の取得	
		▲386	

KIMOTOグループ別売上構成 [連結]



単位：百万円

2026年3月期 実績

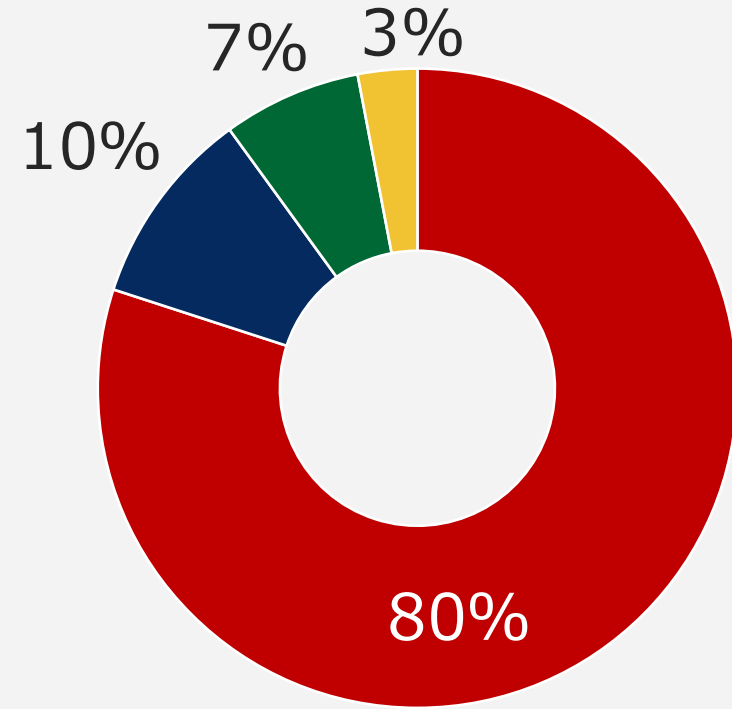
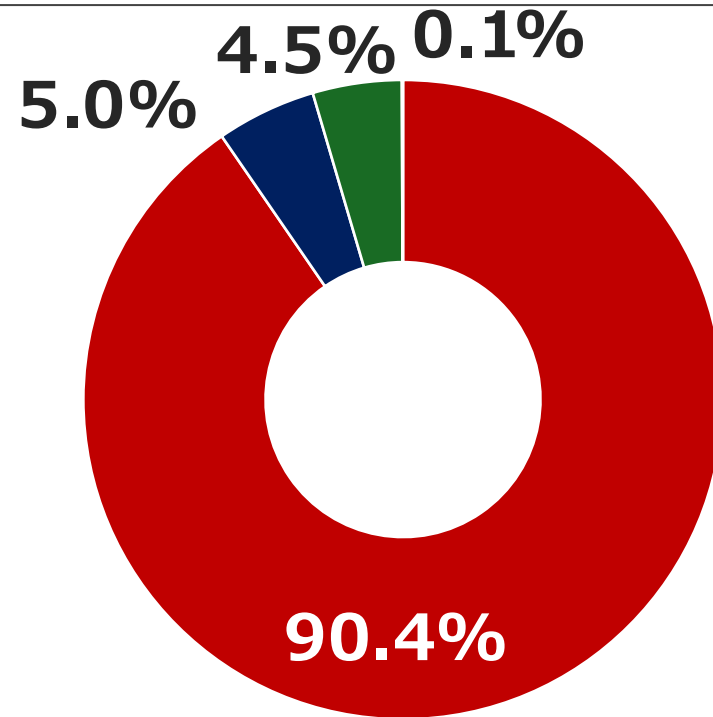
2028年3月期 目標

売上高

10,546

13,300

会社別



- 1 2026年3月期 決算について
- 2 2027年3月期 通期業績予想**
- 3 Global Sales
- 4 Global Tech
- 5 DCX

通期業績予想 [連結]

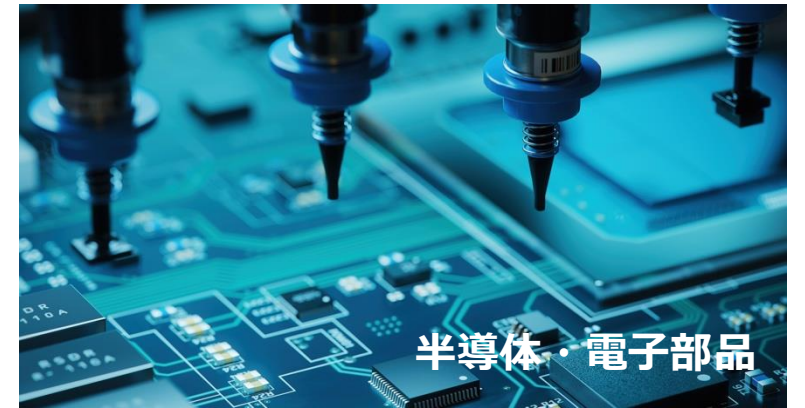
- 中東情勢の緊張に伴う原油やナフサ調達環境への影響など事業環境の不確実性が高く、現時点では合理的な業績予想の算出が困難であるため未定



- 1 2026年3月期 決算について
- 2 2027年3月期 通期業績予想
- 3 Global Sales**
- 4 Global Tech
- 5 DCX

2026年3月期 トピックス

■ 通信機器・産業機器向けが堅調に推移した一方、輸送機器向けでは低迷



高機能材料事業 2026年3月期売上内訳（前期比）

単位：百万円

高機能材料事業	2025年 3月期実績	今期実績	増減率	トピックス
通信機器	4,489	4,333	-4%	拡散フィルム苦戦・カメラ部材新規獲得
輸送機器	2,821	2,308	-18%	自動車生産低迷より拡散が低調に推移
産業機器	1,289	1,579	23%	FA・医療機器向けハードコート製品販売が 順調に推移
その他	3,094	2,386	-23%	特定顧客の販売内容変更により 販売額低下するも収益性改善

※上記の売上高は内部取引を考慮しておりません。

デジタルツイン事業 2026年3月期売上内訳（前期比）

単位：百万円

高機能材料事業	2025年 3月期実績	今期実績	増減率	トピックス
3D	175	171	-2%	内製化の進行でLiDAR減 SPLAT TWIN成長の兆し
2D	86	102	18%	県や市町村からのトンネル案件の増加
コンサル	16	22	36%	新規受注に苦戦するも前年比36%増
その他	114	61	-46%	前年の特需反動による仕入商品の売上減少

※上記の売上高は内部取引を考慮しておりません。



高機能材料事業 2026年3月期売上・実績（予算比）

単位：百万円

材料	予算	実績	達成率	トピックス
異種基材	1,000	1,138	114%	カメラ部材立上げ順調
高機能液	60	31	52%	海外新規顧客スペックインで苦戦
エコ製品	700	728	104%	サンドブラスト順調 粘着製品立上げ遅れ

※上記の売上高は内部取引を考慮しておりません。



高機能材料事業 2026年3月期売上・実績（予算比）

単位：百万円

分野	予算	実績	達成率	トピックス
医療分野	40	92	230%	医療タッチパネル向け好調
半導体分野	100	135	135%	AIデータセンター向けで伸長
エネルギー分野	90	77	86%	輸送機器（EVバッテリー）向け伸び悩み

※上記の売上高は内部取引を考慮しておりません。

SPLAT TWIN の技術力・活用価値への注目が拡大

■ 写真から高精細な3D空間を生成する3DGS技術への注目が拡大

日経トレンディ 広告掲載



2026年2月号「注目 次クル?!
クローズアップTOPICS最前線。」

専門誌 「配管技術」掲載



2026年3月増刊号
配管設備の可視化やDX活用を紹介

展示会を通じたデジタルツイン事業の発信強化

- 製造業・建設業分野を中心に国内外の展示会へ出展し、デジタルツイン事業の認知拡大と提案機会の創出を推進

7月 幕張



7月 東京



8月 台北



10月 名古屋



11月 三重



コンサルティング事業における新規案件獲得

製造業DX

製造業向けDX案件を新規受注

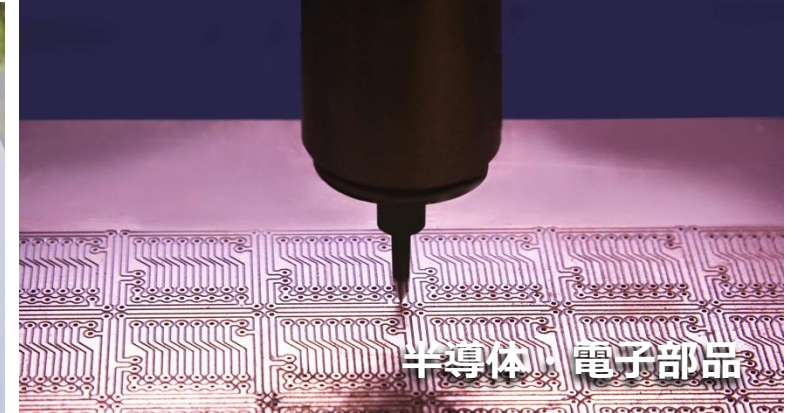
働き方改革

食品・建設業界向け講演を受注

2028年3月期に向けて



- 2028年3月期の売上・営業利益目標の達成に向け、製造業DX、建設DX、半導体・電子部品、フィルム太陽電池、車載用フィルム、耐候性製品を重点領域として、成長戦略を推進

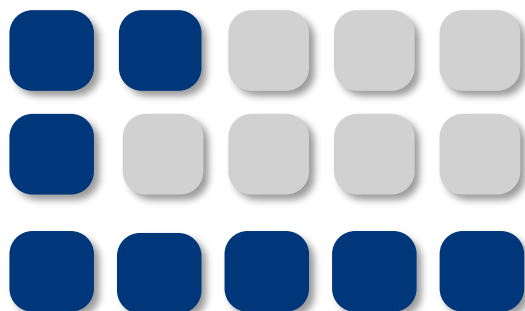
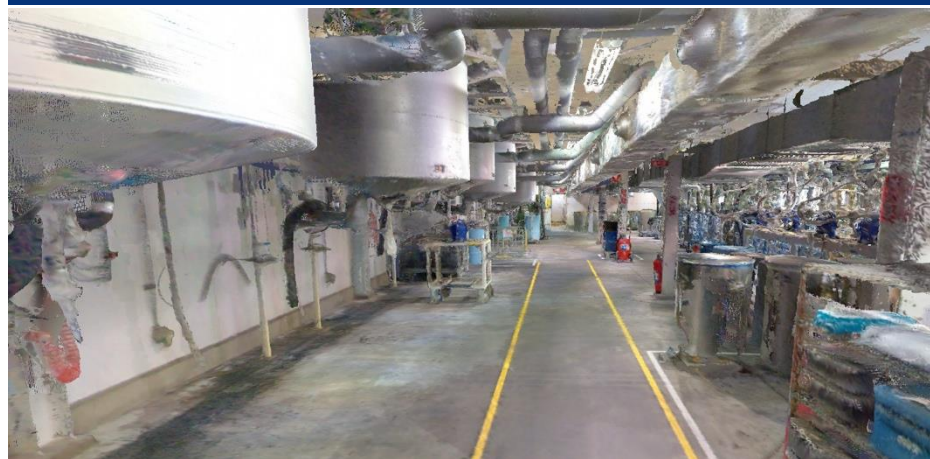


- 1 2026年3月期 決算について
- 2 2027年3月期 通期業績予想
- 3 Global Sales
- 4 Global Tech**
- 5 DCX

3次元技術の深化「SPLAT TWIN」

- 次世代3D技術「Gaussian Splatting」を活用した「SPLAT TWIN」の技術深化を進める
高精細かつ軽量の3D空間を実現し、建設・インフラ・製造業分野での活用を展開

点群 (Point Cloud)

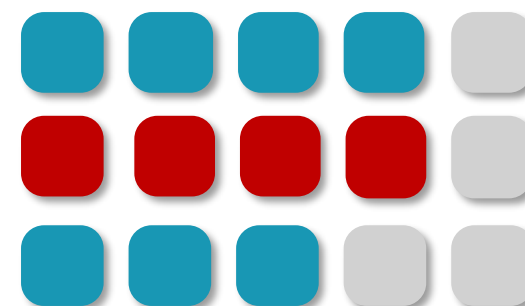
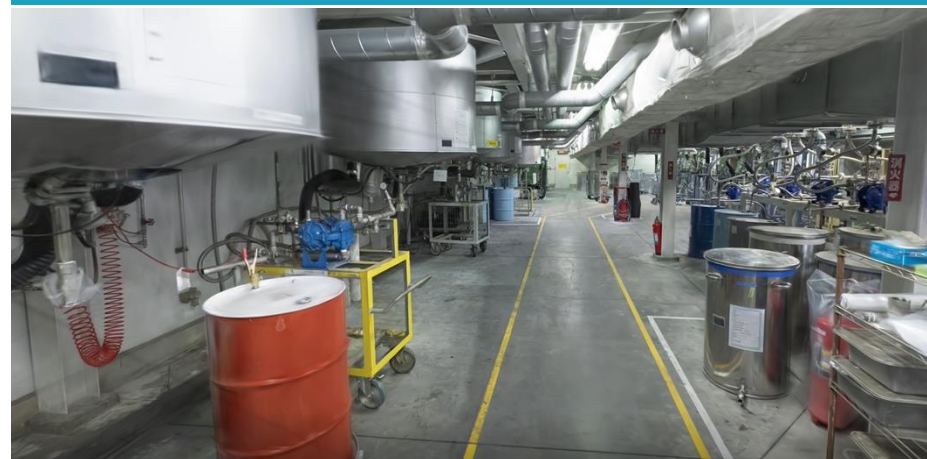


表現力

データ容量

計測精度

SPLAT TWIN



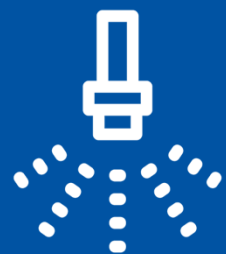
3次元技術の深化による一気通貫体制の強化

■ 次世代3D技術を習得し、新型計測機材の導入も含め、撮影からデータ処理、管理まで一気通貫の技術を深化



高機能性液開発に向けた設備を強化

■ 開発・分析設備を導入し、高機能性液の研究開発基盤を整備



微細・均一塗布による高機能液
開発・品質評価強化

スプレー塗布装置

高倍率観察による液設計・
不良解析精度向上

電子顕微鏡SEM



微小エリア分析による
高機能液の解析力強化

顕微FT-IR

微小領域測定による光学性能
評価の高度化

顕微分光光度計



新製品創出に向けた研究開発戦略



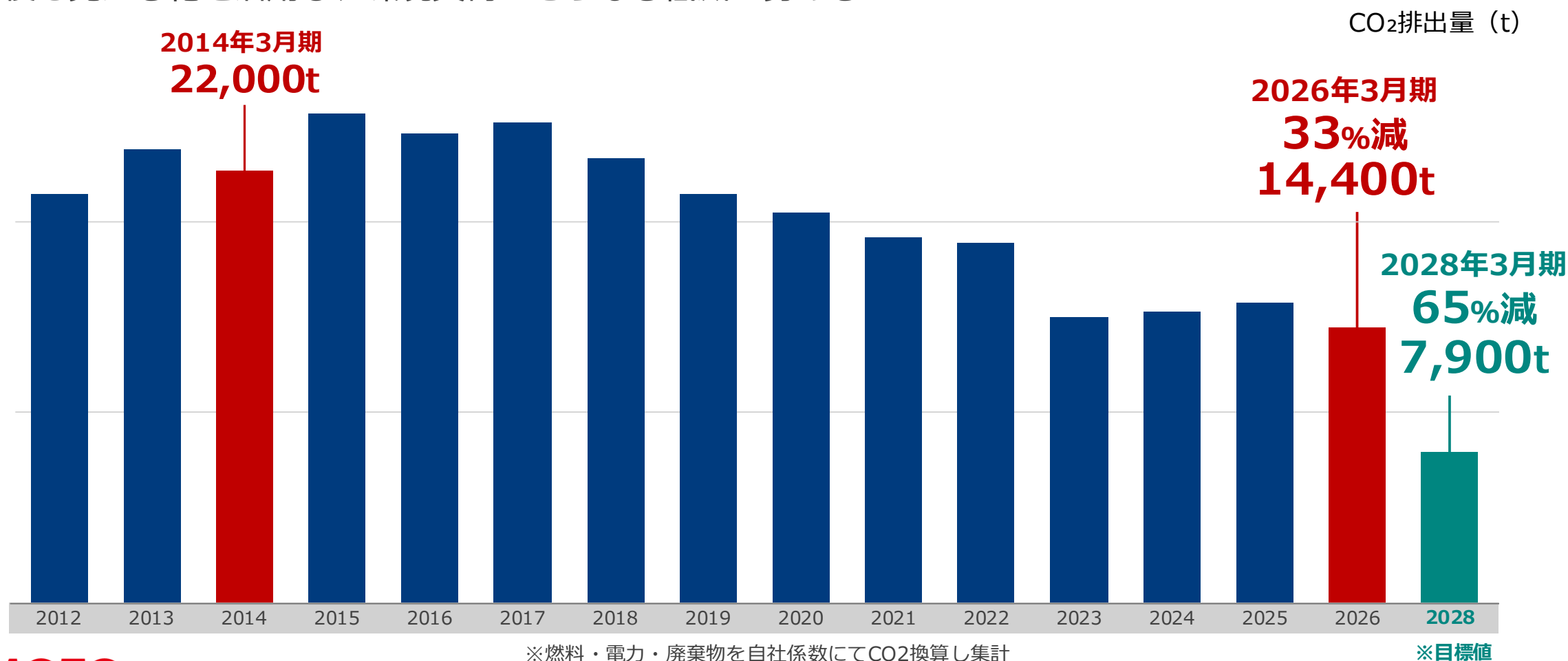
2028年3月期 新製品寄与率 12%に向けて	項目	進捗の説明
	分業推進	分業の推進により、実験件数が2025年3月期比で1.2倍に増加 MI導入により、開発効率化を推進 2028年3月期 新製品寄与率12%達成に向け取り組みを推進
	実験装置の自動化	
	データ解析 AI活用	

※ 新製品とは発売から3年以内に発売された製品を含む。
※ MI = Materials Informatics の略称。材料開発の効率化を指す。



CO₂排出量の推移と2026年3月期実績

- 2026年3月期のCO₂排出量は14,400tとなり、2014年3月期比で33%減少
今後見える化を活用し、環境負荷のさらなる低減に努める



生産性の向上（2025年3月期比較）

■ 生産計画の見直しにより、段取り替え等のムダを削減し、生産性が向上

歩留まり

1.0%

UP

段取り替え削減による効率化

稼働率

0.85%

UP

生産計画最適化による稼働向上

環境配慮のモノづくり（2025年3月期比較）

■ 生産性向上により廃棄物の発生を抑制するとともに、廃棄物の有価物化により廃棄量削減を推進

廃プラスチック



約**14**トン削減
-2.8%

廃液



約**37**トン削減
-13%

- 1 2026年3月期 決算について
- 2 2027年3月期 通期業績予想
- 3 Global Sales
- 4 Global Tech
- 5 DCX**

新設部門について

DCX

Digital Communication Transformation

全社のDX・働き方改革を部門横断で推進し、
グループ全体の連携・コミュニケーションを強化



企業マネジメント戦略 企業基盤の強化

	項目	進捗率	進捗率の説明
IT・DX戦略	生産性向上	10%	第67期新組織編成し、BODXへ着手
	基幹システム強化	20%	データドリブン経営へ向けマスター整備
	全社AI導入	100%	導入完了
人材戦略	IT・DX育成	10%	学習支援ツールを活用したキャリア形成支援に着手
	新人事制度PJ	100%	第67期運用開始
	グローバル研修	100%	C25450広島実施、第二弾C26450着手

改善意識の向上と社内交流の促進

- 業務改善活動の共有とリアルな交流の機会を通じて、従業員の改善意識と組織内コミュニケーションの活性化を図る

改善テーマ発表会



改善活動の成果を共有し、
従業員の改善意識を高めました

リアル懇親会



部署や拠点を超えた交流を通じて、
コミュニケーションの活性化を図りました



企業マネジメント戦略 企業価値向上

	項目	進捗率	進捗率の説明
IR・PR戦略	決算説明会開放	100%	取材・面談・掲載を通じて、外部への情報発信機会を拡大
	積極的なPR活動	5%	
	IRイベント実施	5%	

IR・PR活動実績

IR取材・面談件数 投資家・株主との対話機会を確保	23件	PR掲載件数 雑誌掲載等	8件	PR取材件数 外部メディア取材への対応	6件
------------------------------	-----	-----------------	----	------------------------	----

人材活躍に向けた取り組みが外部評価に

- 働き方改革と多様な人材活躍の取り組みが評価され、「なでしこ銘柄」注目企業や「週刊東洋経済」で紹介
人的資本への取り組みを社外へ発信し、企業認知向上につなげる

令和7年度「なでしこ銘柄」 注目企業として掲載



働き方改革×DXによる多様な人材活用の
取り組みが評価されました

「週刊東洋経済」 中堅企業特集に掲載



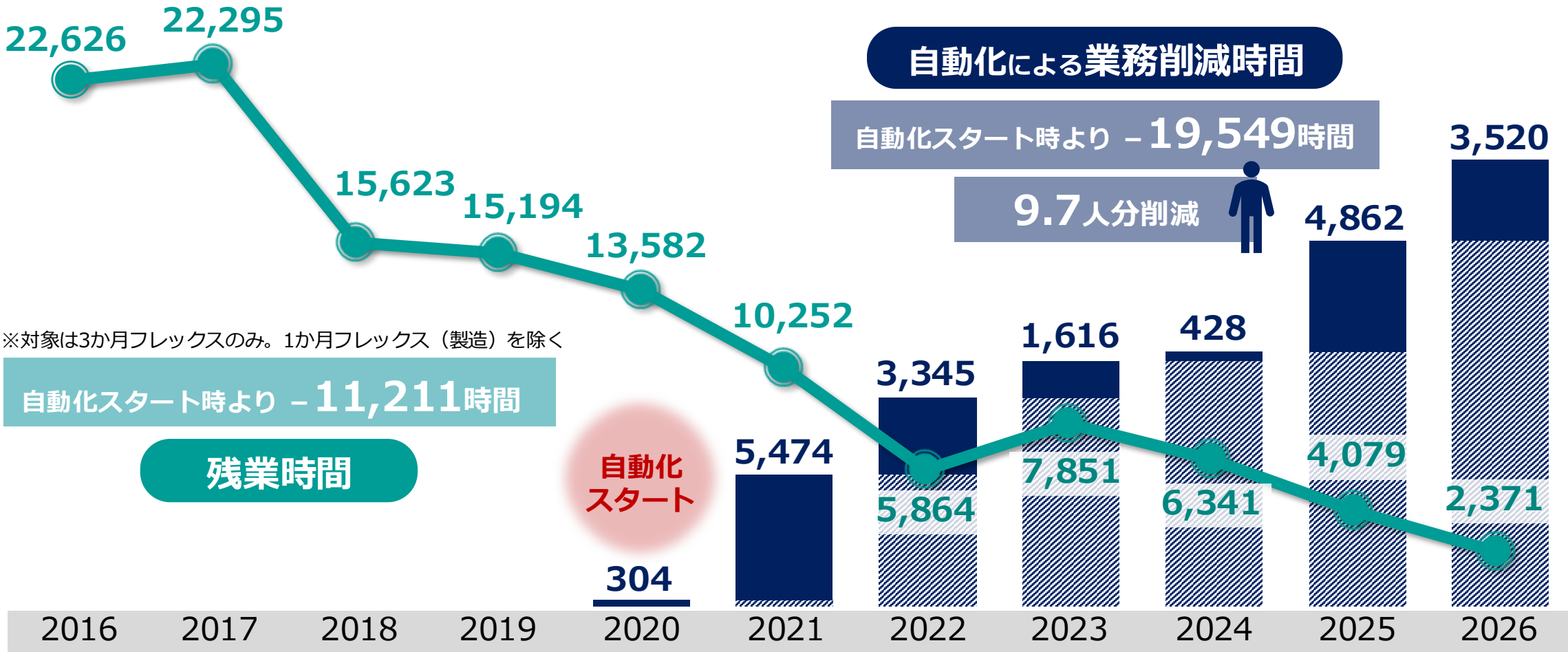
人材活用分野で高い評価を受けた企業事例として、
働き方改革や人材育成などが紹介されました



週休3日制に向けた働き方改革の推進

■ 業務削減や自動化、残業時間の推移確認を通じて、生産性向上を段階的に推進

単位：時間





KIMOTOファーム 2026年3月期 売上実績

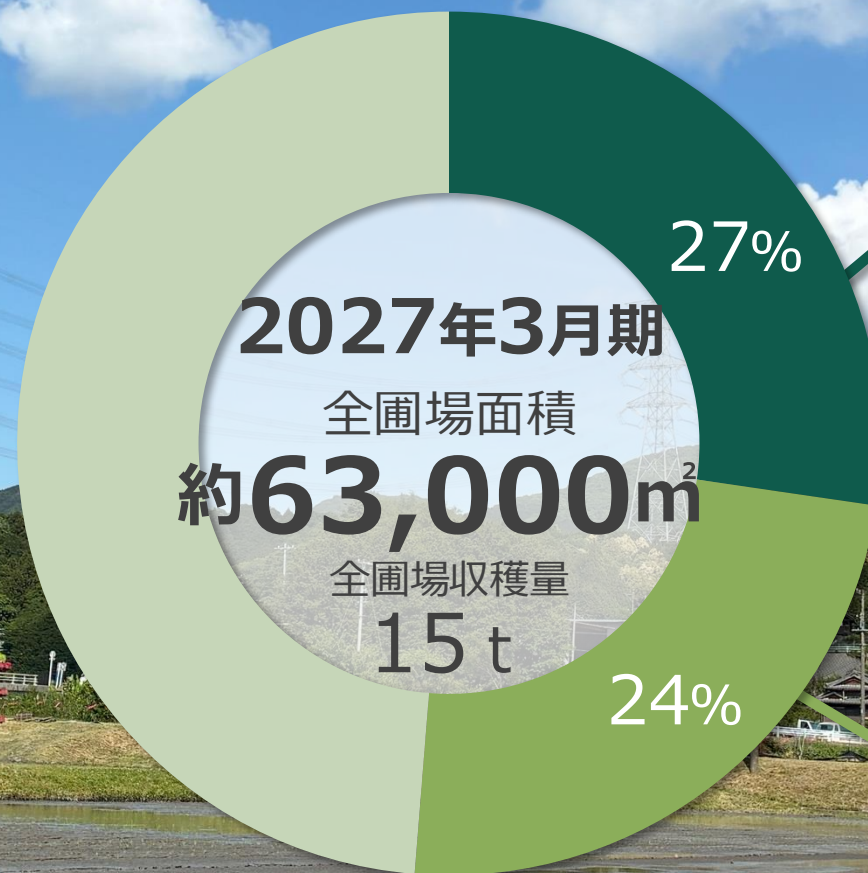
■ 有機JAS認証の対象圃場は、現在の認証圃場に加え、2026年さらに追加予定

単位：百万円

	2028年3月期 目標	2025年 目標	実績	達成率	2025年 収穫量 (t)	2026年 収穫予定量 (t)
米	30	12	13	108%	13.4	15

KIMOTO 有機米栽培の取り組み

- 2026年菖蒲脇圃場でも有機JAS認証(転換期間中)取得予定
- 今年の収穫予定量は、全圃場合計で約15tを予定



塩崎

有機JAS認証(転換期間中)

面積 **17,200 m²**

収穫量 4.5 t

菖蒲脇

有機JAS認証取得予定

面積 **15,100 m²**

収穫量 3.9 t



2026年3月期実績：成長投資と株主還元を実行

■ 初年度は、成長投資と株主還元を合わせて1,087百万円を実施

単位：百万円

成長投資	株主還元		66期 合計
778	309 配当性向55.6%	=	1,087

成長投資

中期経営計画の初年度として、将来の収益基盤強化に向けた投資を実行しました。

株主還元

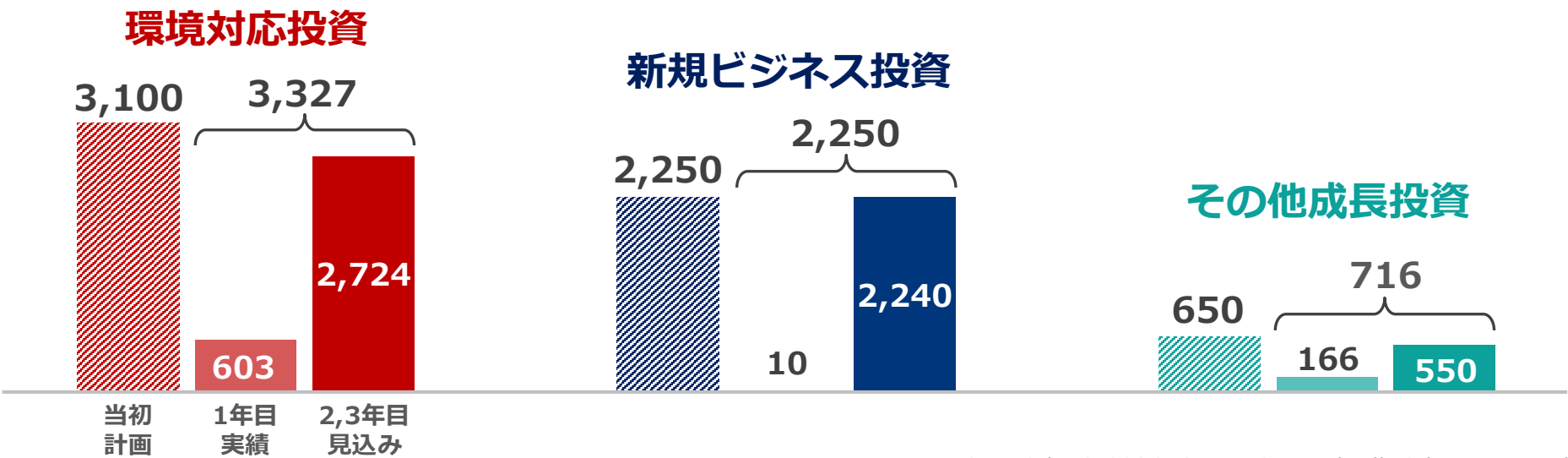
当期純利益を踏まえた配当を実施し、配当性向は55.6%となりました。



投資計画と進捗

単位：百万円

	環境対応投資	新規ビジネス投資	その他の成長投資
当初計画	3,100	2,250	650
1年目実績	603	10	166
2,3年目見込み	2,724	2,240	550





つながる“すべてのモノ”が環境にやさしくあるために
私たちのノウハウで貢献する未来

本資料は情報提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。
本資料（業績見通しを含む）は、現時点で入手可能な情報と合理的であると判断する一定の前提に基づいて当社が作成したものであります。
実際の業績等は様々な要因により、大きく異なる結果となる可能性がございます。